常磐毎日新聞
日刊
三月十六日 夕刊
定價 一部金貳錢 一ヶ月金五拾錢 郵税五厘
廣告料普通一行五拾錢、場所指定一行七拾錢
日曜祝祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人 坂本忠治
福島縣平字長橋町三五
發行所 常磐毎日新聞社 電話 六三〇番
印刷所 常磐毎日印刷株式會社
（振替口座）東京 四〇一二〇番

天氣豫報
今晩は東の風曇
明日は東の風曇

枕邊に想ふ戰塲の夢
獻身的な看護に唯！涙
感激に滿ちた白衣の勇士
傷病兵慰問團の土産話

平市及石城郡出身の傷病兵慰問團を組織した平市會議員一行は三班に分ち十四日若松、飯坂兩〇〇病院の慰問の途に上つた野崎議長、金古、鈴木（重）、鈴木（光）、矢吹（龜）の五氏一行が十五日夕刻歸平し一行は交々語る南町出身上田軍醫少尉の

案內で 平市及郡出身兵を懇ろに慰問したが中でも重患者は左の三名で

月見町大竹德義氏は右肩、中平窪上斐久翁氏腰部、磐中教諭矢澤憲夫氏は左腕を

何れも手榴彈、迫擊砲で貫通銃創を受けた身も忘れて慰問團一行の市役所軍事後援會及び市民有志からの慰問金品を受取つて深く

感激してゐた、更に新館に收容中の平市及び郡出身二十九名の傷病兵を慰問したが、こゝには

一丁目赤津重美、田町先崎末藏、鎌田和知秀好

の三氏で傷は漸次良好になり近くそれ〲歸還されるものとみられてゐる中にも涙なくして聽かれぬ看護兵諸君の不眠不休の看護振りで慰問團一行を感激せしめてゐる、平（染野）好間（吉田）勿來（小野）の三

看護兵は郷土出身の傷病兵を我が兄弟の樣に看護一日早く快癒に努めてゐる、尙第二班渡沼副議長一行は目下東京陸軍病院を慰問十八日頃歸平するが、更に野崎議長馬目、藤田の三氏は來る十八日仙臺陸軍病院を慰問する

御歌傳達
湯本は十六日

湯本町では今十六日午前十時から同町出身兵家族十三名を役場樓上に招き皇后陛下御製りの御歌を傳達した

水質講習
松井技師が受講

上下水道水質講習會は來る二十五日より三十一日まで每日午前九時から午後四時に亘つて東京市衛生所講堂に開かれることになつたが平市からは市水道課技手松井深氏が出席受講する、尙講習課目は

△上水道化學試驗法一般
△上水道細菌學試驗法一般（微生物試驗概要）
△下水試驗法一般

轢殺運轉手に
略式罰金五十圓

小名濱町字定西管原勳氏方自動車運轉手横山直記（三）は今十六日平區から業務上過失致死罪で略式罰金五十圓に處された

同人は去月十三日午後一時頃トラックを運轉同町林ノ上地內を疾走中通り合はした山形縣生れ目下住居不定無職東海林德太郎（六九）さんに衝突直ちに附近の草野醫院に擔ぎ込み手當を加へたが遂に死亡したものである

銃後團員―意氣を昂揚して
第三方部 靑年團總會
嚴肅裡に宣言決議
優良十三君表彰

第十四回石城郡聯合靑年團第三方部總集會は今十六日午前九時半から市內聚樂館に開かれ國防服に身をかためた團員約一千名參集先づ大塚副會長の開會の辭に次いで君が代奉唱、令旨奉讀、吉田會長の挨拶、前正副會長の挨拶の後、協議に入り、會務報告前役員に記念品贈呈各靑年團から一名宛左の如く優良團員の表彰を行ひ中島磐中教諭の「日本精神の顯現」と題する講演、團員の意見發表、餘興等あつて平署武道場に劍道大會を開き銃後下靑年團員の意氣を昂揚し午後五時盛會裡に閉會した

◎優良表彰團員 鈴木安男（內郷）馬目國光（飯野）金成茂雄（好間第一）鈴木武男（好間第二）鈴木五佐男（赤井第一）國府田多門（赤井北部）大平忠一（小川）高野季一郎（川前）長谷川勝衛（桶賣）佐藤正一（神谷）小野英一郎（豐間）小野光家（高久）久保木幸文（夏井）

尙ほ當日の宣言決議は左の通り

◎宣言

今や神國日本は古今未曾有の超非常の時機に直面し、眞に心ある日本人たるもの必ずしも中堅靑年團員たるを問はず、心すべきの秋である。

眞日本人たる者は、須らく、生死境の分岐點に直面せる自覺決心の行動をなさざるべからず。

斯かる長期戰待機の態度にこそ東亞永遠の平和國策確立をなし得る盟主となり、延いて世界平和人類眞幸福實現實行に邁進する誠意ある神國日本の大使命あるを以てである。

◎決議

▼長期戰待機態度の人的に思想國防あり、物的に經濟國防ある以て、これが氣魂を長養せねばならぬ。

▼本靑年團は靑年學校義務制の重要性に留意しこれが內容充實に貢獻せねばならぬ。

▼地方中堅靑年團は必ずしも防共思想のためにナチス精神に範を採ると云ふにあらざるも採長補短の大度量を以て進みて出征軍人遺家族の慰問並に勞力奉仕をなすと共に戰勝祈願奉仕として郷土信仰の中心靈場たる赤井岳勞力奉仕に留意することは時局柄緊要なるを知らねばならぬ。

▼時局柄特に中堅靑年團は技術の如何を問はず精神武道を尊重して、尙武日本の海軍爆擊、陸軍突擊の搖籃たる劍道精神の獎勵は勿論、これが道場たる武德殿建設促進運動に勞力せねばならぬ。

▼中堅靑年團は特に、時局柄御令旨に感激して修養團精神の涵養發揚運動に來加するの明智を持たねばならぬ。

▲中堅靑年團は特に、時局柄、多年の迷夢より眞に覺醒して一生一回の壯丁檢査を有意義たらしめねばならぬ

國民精神總動員
家庭の實施要項
平市が時難克服の指示

平市では國民精神總動員中央聯盟の審議決定に基き非常時下に於ける左の如き各家庭の實踐事項を指示し各家庭に通報、今後生活に例へ如何なる困難が到來しても時難を克服して行く樣今からこれ等を實行し非常時下に對處する樣勸獎することになつた

△家庭報國三綱領
一、家は國の礎 健全なる家風の作興
二、適正なる生活の實行
三、皇國民としての子女養育

△實踐十三要目
一、每朝皇太神宮を拜し皇室の安泰を御祈りいたしませう
二、祝祭日には國旗を正しく揭げませう
三、每日神佛を禮拜し又長幼の禮を正くし、家庭の和合に努めませう
四、豫算生活、現金買、天引貯金を勵行し、又進んで國債に應じませう
五、服裝は質素簡單を旨とし髮容は徒らに外來の風を模倣することを避けませう
六、婚禮夜更しの惡風を改め、時間の活用に務めませう
七、金物、毛織物、木綿物、紙、燃料等を節約し、廢物及死藏物の利用を圖りませう
八、火災その他の災害防止に努め、且つ空襲に備へませう
九、兒童の訓練と榮養に注意し心も體も丈夫に育てませう
十、徒步を勵行し每日體操その他の運動を行ひ心身の鍛練に努めませう
十一、禁酒又は節酒を勵行し、未成年者の禁酒禁煙を堅く守りませう
十二、常に近隣と相親しく互に扶け合ひませう

平局の新電話
四月一日から受付開始

平郵便局の十三年度單獨加入電話は來る四月一日より十二日迄申込みを受付くることゝなつた、設備費は昨年と同樣百八十圓で、今から申込み殺倒を豫想されてゐる

詳しくは同局電話五〇〇番へ照會されたいと

平保健組合で
傷病兵慰問金

平三業保健組合では市會議員が各病院に郷土出身傷病兵慰問を行ふことをきゝ慰問費中に加へて欲しいと二十二圓五十錢の寄附を申出た

馬匹去勢
十八日小名濱で

小名濱町ては來る十八日午前十時より同町海岸に於て馬匹去勢を執行するが頭數は約壹百頭の見込

都市の美化運動に
斷然平市も正式加盟

躍進平市では都市美の增進と都市醜の排除に力をそゝぎ近代都市としての美化强化を計りこの程都市美協會に入會都市美の達成に邁進することになつたが郡市美協會は貴族院議員板谷芳郎氏を會長に推戴都市美化に向つて講演會座談會等を行ふもので全國主要都市は殆ど會員になつて居り近代都市としての平の美化は之と相俟つて各方面から期待されてゐる

是れからの仕事（講演大要）
日曹社長 中野友禮氏

―（一）―

東京橫濱間の野原は今は家續きである程非常な變化を見せてゐるけれども本郷邊は昔のまゝの樣子を見せて、餘りの變化がないで、私は考へました。

人間は東北に住むと東京以西に住むとは大變な差異がある、私は子供時代に大きな寺だつた、大きな家だつた、廣い野原だつたと思つてゐたものは大きくもなく、廣くもなかつたしまた、昔、そのまゝの姿を見てゐる程、進步もないさびれ方である、東北地方は如何に淋びれてゐるか、がわかり一つも進步してゐない。東京で生まれ場所により幸福に大きい差が出來、行く場所、自分の進むべき道によつて、非常な差異が出てくるのである。

職業もそうである、下駄はこれからの時代にはます〱すたれ洋服はその需要がいよ〱大きくなるのであるが人は、この樣に進步する職業を選ぶべきであると思ふ。私等はこれから行くべき道は餘程考へねばならないのである、即ち「之からの仕事」でありどんな風に考へねばならないかであります。

×　×

今日の日本は維新から言へば、三代目であります。「賣家と唐風と書く三代目」といふことがあるが、明治大正の維新、昭和維新と、維新の三代目である、三代目は何時もむづかしい時であります。

德川三代將軍家光が馬鹿であつたなら、德川十五代は續かなかつたらう今の靑年はその昭和の三代目で、よく考へねばならない時代であり、非常に大事な時代最も働くことの出來る時代、であります。

學校卒業後三、四年で仕事の出來ない學生では何んにもならないのであります。

海軍少年航空兵が〇〇から上海方面に渡洋活躍し、中には半分の翼で歸つて來たの如き、あの氣持は並大抵の人間には出來得ないのであります。

先日、臺灣から來た人の話によると、臺灣から上海方面には飛行機で二時間と四十五分かゝるがその間を十四時間も活躍して歸るのであるが、その疲勞は非常なもので、歸つた時は失身狀態で、戰友の看護でどうやら氣持をとりなほしてから休憩させるのださうだ（すぐねかすと死んでしまふからださうです）がその働き、その氣力は、若い者でなければならないのです。

近衛首相が、この非常時は老人の働きによらねばならないといつてゐられるが實際である、若人の氣力が非常時突破になくてはならないものであります。

唐金火鉢を盜み
神罰で平署へ御用

山形縣酒田市大町生れ住所不定無職本間新之助（三三）は十五日夜內郷村大字綴秋山神社から名入りの唐金大火鉢（時價四十餘圓）を盜み出し平市南町某古物商に賣却し今十六日朝平署へ

志願者五百十六名（磐女）
入學難は免れぬ
倍以上になりけふ締切

磐女の新學年度入學志願者の願書受付は既報の如く今十六日正午を期し締切つたが募集定員二百五十名をはるかに突破して五百十六名に達し、然も昨年の四百八十二名より三十四名增加した

これは選拔方法が改正され學科よりも休格の方面に重點がおかれるやうになつたために多小學科に自信がなくとも休格の優良な兒童は入學を希望するといふ傾向を如實に物語つて居り、また時局に刺戟され向學心を燃して上級學校を志望するものが多くなつたのと一面好景氣到來の現象とみられる

然し斯樣な狀態では如何に選拔方法が緩和されたとはいひ定員に對し應募者が倍以上と言ふ狀態では依然として入學難試驗地獄が展開さる譯である

中等學校
志願者調べ

（十六日現在）

▼磐中	一七二
▼平商	一三三
▼磐女	五一六

磐女志願の
學校別

（別項）今年度の磐女入學志願者は定員の倍以上五百十六名に達したが、これら志願者の小學校別は左の如く果して如何なる入學率を示すか？早くも各方面から三十一日の成績發表を注目されてゐる

△平第二—一二〇△同第三—三三△同第四—七△湯本—三六△四倉—二五△好間—二三△同尋—五△植田—二〇△小名濱—一七△草野—六△內二—一四△高坂—一三△內三—一五△同—一五△大野—一三△江名—一二△勿來—一〇△同尋—三△錦—一〇△赤井二—九△同—五△神谷—八△入遠野—六△上遠野—五△高久—五△泉—五△大浦—四△川部—四△飯野—四△澤渡—四△小川—三△玉川—三△豐間—三△夏井—二△入山—二△磐崎—二△同—一△渡邊—一△鹿島—一△川前—一△郡外—二八△縣外—一四

トロッコ車輪初め
前後廿數回
手當りばつたり盜む

江名町下神白字砂引岬無職馬目己之吉（三）は昨年九月頃から三月初旬迄同町內務省港灣改修工事場から前後十數回に亘つてトロ車輪（二十四個）價格百八十餘圓を窃取し附近の畑中に隱匿、朝鮮人某に賣却したのを手初めに附近町村から時計、万年筆等を（價格百五十圓）手當りばつたり掻つ拂つてゐた事發覺十六日平署員に檢擧

交換孃合格發表

既報―過般行はれた平郵便局の交換手採用試驗結果は今十六日發表されたが、合格者は志願者五十三名中左記十一名でこのうち小林、人見の兩名を除く九名はいづれも近く學窓を巢立つ平第二校の高等科二年生でこの好成績に千葉校長始め職員一同喜んでゐる

大高とみ子、影山サト子、鯨岡喜美子、酒井貞子、鈴木光子、鈴木文子、鈴木和子、錦織照子、荒木友子、小林美代、人見初江

裸体の
凍死体
精神病と判明

十五日午後二時頃磐崎村長孫三反田地內に裸体の四十七、八才位の男の溺死体あるを附近民が發見平署で檢視の結果內郷村高坂立野天坑夫鈴木福次郎（五三）と判明、同人は昨年來精神に異狀を呈してゐるので家人が警戒中去る十三日午後一時頃フラ〱と家出現場附近の小川に轉落飢と寒さの爲に凍死したものである

平校課外視察

平第一校の尋常科卒業生は明十七日平機關區を見學する

平驛異動

小荷物主任 佐々木松助氏
命水戸運輸營業部主任
水戸事務所 丹治傳藏氏
命平小荷物主任
平貨物主任 小松崎眞氏
命水戸貨物主任
下館貨物主任 吉村倉次郎氏
命平貨物主任

ラヂオ
JOHK

今晩の部
▼後六、〇〇（子供の時間）幼兒への劇「ピッチヤ〱ランラ」オハナシクラブ
▼後八、〇〇 ミユーヂカルドラマ「トウランツト姫」夏川靜枝
▼後八、三五 俚謠「馬子唄外川西德太郎外
▼後八、五五 連續講談「幕末侠客信夫の常吉」（終席）神田ろ山

明日の部
▼後六、〇〇 うたとピアノとオルガン「おてんとうさんの唄」大陽幽稚園々兒
▼後六、一五 講演「所有權の制限」法博末川博
▼後七、四〇 講演「上海陸戰隊の戰鬪經過に就て」海軍大佐 武田勇
▼後八、〇〇 新交響樂「黎明」松浦智惠子
▼後八、三〇 ハモンドオルガン獨奏「千鳥の曲」杉井幸一
▼後八、五〇 ラヂオドラマ「雲雀」進藤英太郎

有名な！……理科學研究所製の
理研紡織ワイシヤツ
特約發賣……開始
◎品質……柄行八種
◎仕立……低廉二、五〇
弊店ウヰンドに陳列し有り銃後の皆樣に御勸め致します。
各種運動服裝
ステープルハイバーの混入せぬ品
在庫品…豊富…廉價
靴と運動具
◇小店員募集
大塚
平市田町銀座通
（電話七十七番）

白柄劍風廼
大島多良夫作
井川洗厓畫
（西）布施長春畫
（東）村瀨寥映畫

……三九一……
橋場の寮〔三〕

『寅さん。お前さんも稽古をしたらどうだね』

と、齋之助はからかひ氣味に云つた。

寅右衛門はひよつとこ面をして頭をかき〱引下つて行つた。長兵衛と齋之助はその寄子の剽輕なのに思はず顏を綻ばして笑つた。

『時に元締さん、御身內のお歷々に俺のことがまだ判りませんか』

『さ、皆にはやかましく口止めをしてあるんだが……金次などには頻りに唐犬や金時が聞くさうでござります』

『若し、俺といふことが判つたらどうなりませう』

『何、決して御心配は御座りません。俺はとつくから考へてゐることが御座りますからね』二人は暫く口を噤んでゐた。が、長兵衛は頓く決心したやうな顏をして、

『齋之助樣一つ貴方に折入つて御願ひがございますが……？』

『俺に……？』

『誠にお願ひ惡い事でございますので、實は今日まで申上げ兼て居りましたのでね』

『どんな事でございますか』

と、齋之助はつく〲と長兵衛の威嚴のある姿を見詰めた。

『貴所の秘法を御傳授願はれませんか』

『はあ、又隱れの法を……？』

『左樣で御座ります』

『別に是れは御座りません、御要望に御傳授を致しますが……然し、彼の秘法は或る場合ばかりにしきや用ゐられませんが……。』

『それが却つて俺の望みなので御座ります』

『はゝあ、成程』

と、齋之助は不思議さうに長兵衛の顏を見守つた。

齋ることを考へてゐると云ふ長兵衛の言葉は、切支丹の一黨洗禮を受けたことのある齋之助には多少理解が出來た、俗眼、それは切支丹宗徒の唱へる隣愛平等と同じやうに、餘り爭闘を好まない町奴といふ立場からであらうと思つたのであつた。まつたく長兵衛の肚の底を割つて見ると、彼は諸國大小名の部兒となつてゐるだけに時折には其れ等大小名の藩士と御前試合と云つた事に招かれる事がある。先方は強い藩士を撰んで立合はせるが、これに對して飽迄も長兵衛が敢然に攻擊的な劍法を執ると、町奴の癖に生意氣だと云ふ自我的な反感を持たれる。これが長兵衛の立場としては、職業上の苦痛があるので成る可くさうした場合には守勢をとるのが望みだからであつた。

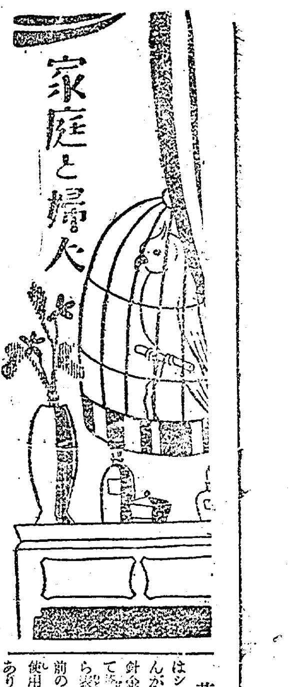
長兵衛と齋之助は顏を見合せてゐたが、何方の肚の底も呑み込めたらしく、

『それで宜しうございましたらば今日からでも御傳授致しませう』

と、齋之助はつとめて侍口調を避けて、長者に對する禮儀をもつて云つた。

『では是非御願ひいたす、俺の口から申上げるまでもなく町奴といふ者は……殊に俺は自ら三ケ條の家憲を造つて、それを堅く守り身內の者にも飽迄も守らせやうと努めて居りますが、然うした平和無事な世の中には、人間の心の奥に潜んで居る爭闘心が兎角無事を嫌つて、人間を血腥い事に導きたがるもので御座ります、だから武士階級の人々から我々共に向つて闘心をもつて來られた時、俺共は逃んで行かないが止むを得ずお相手をする』

家庭と婦人



【今日の婦人問題】

年ごろの娘持つ親心!! ぜひともやりたい 是非とも貰ひたい

だが帶に短かし襷に長し

見合ひ結婚の是非を論ずる方も澤山ありますが、社會機關が今の狀態である以上、見合結婚はまだまだ大層な勢力を持つて居ります。當人同士は勿論、お嫁にやりたい親、もらひ度い親にとつても、是非心得て頂き度い事を少し述べて見ませう。

△……第一、見合ひと名のついた以上は親同志は本人達にも必ずその胸をふくませておいて頂き度い事です、大抵親には知らさずに濟ませる場合も多いし、他所ながら等と、垣間見るやうな仕方の見合ひもありますが今少し物の分つた娘さんなら、こんな見識の低い見合ひ結婚にはかへつて反感をもつてしまひます、又打合せが充分でなかつた場合等も、出て來た娘さんが餘り平常のまゝだつたりすることも良い場合もあるかも知れませんが、惡い結果の方が多いやうです

△……見合ひといつて特別に飾り立てる事もどうかと思ひます男といふものは十人のうち九分九厘までが美しければ早速にもO・Kと來るものですが、表面の綺麗に一時魅力される方も、長い將來の幸福から考へると感心出來ないので無いかと思はせられます

△……しかし何ら見合ひなんて結局一つのチャンスであるから娘さんを出來るだけ美しく見せるといふ事も充分必要なことではあります、本人の娘さんよりもつと美しい人をお給仕に出したり、若い妹を同伴させたりする事は決してすべきではありません この點からお芝居やデパートでする見合ひは餘り感心されません。

△……見合ひの段取になるまでは双方とも可成りの下調べがついて結婚の意思も充分あるといふ點をたしかめた上でないと不可ません 輕率な見合ひにはいろ〳〵な破綻が起り易いものです

△……本人の娘さんがお茶のお給仕に一度出たつきり、なんていふ見合ひは餘りに心もとなくあります、せめて談笑のうちに一言でも二言でもよいから話位はさせるやうに親たちも仕向けるべきです、しかしあまり開け過ぎて本人同士だけで會合させたりしないやう、必ず監督者が付添ふ事

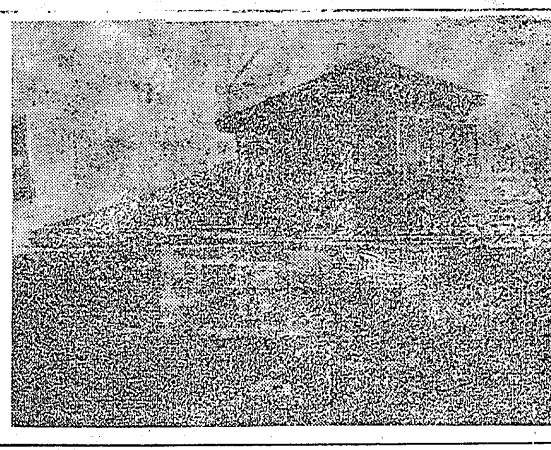
△……見合ひの返事はお互に早く先方に通じるのが禮儀です、ぐづ〳〵長引いてゐるとよい返事でも先方に感情的に滿足でないものを與へます

△……一度の見合ひで十分でない時には二度でも三度でも申込んでかまはぬものですが、豫め先に二三度御交際致して見ませう等と打合せして置くと自然に少しのわだかまりもなく再三の見合ひが出來ますが、第一の見合ひで不可能と思つたら、其處で體よくお斷りする事も出來るといふものです、兎に角見合ひを始める前には、先の先の事まで愼重に考へた上決行するやうにして下さい。C

革手袋 昨年使つた革手袋はシミやカビが出てその使へませんか、御使用前にまづ裏がへして針金を手の形に曲げたものをはめて陰乾しにします、二三日してから表返して揮發油でよくふき更に前の樣に裏返して一週間位陰乾に御使用になると美しく、揮發油臭くありません

お家を新築なさりたい方へ

作り方次第では『借家』の方が經濟



困つた俗論

千圓で新婚住宅を作る位なら 寧ろ飲んだ方がまし

住宅は衣食住といつて人生に於ける最も重要なものゝ一つでありますから理想的な家をもつ事が必要です、所が何れの時代にも流行を追つて新しがる者がありますが**是は御一考**願ひたい所であります、建築費に御心配のない方は別として而も外觀は堂々としたものに見せようといふのだからどうしても構造上に缺陷が出來ます。家具類にしても、同じ費用なら、新しいガラス、机や何かゞ結局あまりよくないのと同樣で、今まで通りの堅實なものを建てるに越した事はありません、千圓位で結婚住宅なんぞ以ての外と思ひます、すぐ子供が出來る、家は傾くでは立つ瀬がなくなります、尤も産兒制限するし家も親がくれるんだから勝手だと仰言るなら一言もありませんが、千圓で御勉強して肚をこしらへていただく方が國家の爲にもなると思ひますが……

さて家をお建てになる時は知人に建築技術者がありますなら大抵その方に御相談なさるのでせうが

建築家と云つてもピンからキリまでありまして、大ビルヂングばかり設計したり、考へたりしてゐる方に小住宅の御相談はどうかと思ひます、やはりその道の專門家がよいと思ひます、もつとも大建築の方をなさつてゐる方にも例外はありませう

次に家はその家に住む方に最も適當した書齋、寢室（親や同居者のある場合）食堂、其他の間取り、採光、通風を考へねばなりません、雨漏防止に就ては屋根から座敷へ落ちるといふのでなく、窓際から座敷にしみ出る雨水についても考へて下さい、それから臺所とか其他の設備（風呂場、便所、廊下通路等）の配置、大きさが適當に考へられねばなりません、最後に天井の高さと室の大きさの比例、造作等各自の嗜好を考慮し、また地方の慣習を無視してはなりません、地方の慣習は棄てるべき點もありますが氣候風土の關係で（例へば風ほこりの多い土地では臺の場所、庇の深さ等）必要なものがあります、それで私が今こんな家を建てたと假例は申しあげることは出來ないのですが以上申しました事をよく御自分で考へた上で專門の技術者にかういふ家を建てたいがと御相談なさるのが最も宜しいと思ひます

何もかも技術者まかせにすると、家が建ち始めてから、こゝが氣に入らないなど考へ出してまた餘計な費用を出さねばならなくなります、それで技術者としても始めに御建てになる方でハツキリと御注文をなさいましたら技術者の個人の習慣だの思ひつきだのを押しつけて、後になつて修繕ばかりしなくてはならなくなるやうな**目に逢はせ**る事もなくなる譯です、御自分の住む家ですから、住み良い飽きの來ない、堅實な家を御建てになるやう御注意下さい、時期としては秋期の一時位の上下は問題でありませんから、日の長い乾き易い時期を御選びなさるがよいと思ひます

×

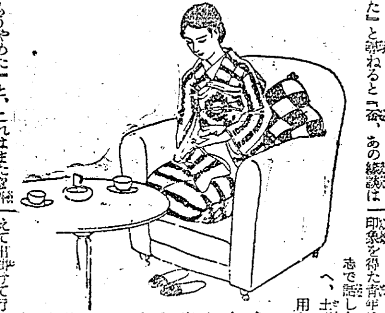
一寸した事から

良縁を取逃した

洋式作法にうとく

國民作法研究會長 市守謹吾

私の知人の某文學博士ですが、洋行から歸つてお嫁さんを探して居りましたが、或日私の許へ訪ねて來て『いよ〳〵氣に入つた婦人が見付かつたので結婚する』といふので『見合はしたのか』と尋ねると『否、見合はしないが寫眞は見たし、色々調査もしたから大丈夫だ』との答。しかし私は『一生の配偶者を定めるのに見合もしないとは氣が早過ぎる』と、一度は會見してみるやうにすゝめました。そこで博士もその氣になつて、見合をしたのですが、それから數日後のことです『見合はどうだつた』と尋ねると『否、あの縁談はもうやめた』と、これはまた意外な返事です。あんなに氣に入つて居たものを、數日の間にひどい變りやうはどうした譯かとよく聞いてみると、其の理由はからでした。



丁度二月で寒い時でしたが、會見したのは洋間で暖房設備が行き屆いてないため相當に冷え込みました。娘さんは小紋縮緬の着物を着て居たさうですが長い會見に足が冷えてたまらなくなつたものでもありませうか、話の最中、椅子の上にきちんと坐り込んでしまつたさうです。處が、これを見た博士の彼女への婚意はむら〳〵と不快に變つて行きました。さうして會見の終る頃には、此の縁談は斷然やめると決心してしまひました。

『──洋式の作法を知らずそんなことをしたといふのなら、餘り非常識すぎる、若し作法を知つて居ながらやつたのなら、結婚もしない前から男子を侮辱してゐる。どちらにしても、こんな婦人はやめだ』と云ふ彼の言葉でした。

あとで破談の理由を知つた彼女は、地團駄踏んで泣いたさうですが、こんなのは極端な例かも知れませんが、洋食の食べ方一つでも新時代の作法を了解してゐることは教養ある婦人のたしなみだと思ひます。

地方のあるお嬢さんが、上京の折に東京の某青年と見合ひをしました。其後お嬢さんは間もなく歸郷しましたが、一回の見合ひに好印象を得た青年は、尙よく本人同志で話し合つて見たいと考へ、土曜日曜の休みを利用して百里の道を遠しとせず彼のお嬢さんの縁里を訪れたのでありました。お嬢さんは伯母の家に寄寓してゐる身でしたが、はる〳〵たづねて來た青年を迎へ伯母さんは心から歡待しました。けれども意外にも、當勇込んで希望に燃えて出掛けて行つた青年は、二日の後には失望して歸京したのです

何故か？ 青年の申し分は、『彼女の伯母さんは實によくもてなして呉れた彼女も給仕に出たりしては呉れたが、遠方から出掛けて行つた自分に對して彼女の態度はあまりにも冷淡だつた』

冷淡だつたといふのは、此の青年を嫌つて居た爲かと云ふに決してさうではなかつたので、寧ろ嬉しくてならないのであるが、さう見られるのは婦人のつゝしみが足りないと思はれはせぬか、と餘りな氣兼ねが此の誤解を生んだのでした。

石のやうな無表情は相手の青年の愛情をも石のやうに固く冷たくこほらせてしまつたのであります

先夫の子が逢ひたいと言つて來るが……

【問】私は本年四十八歳になる人妻です。二十一歳の夏ある男に暴行され、やむなく、親兄弟に見はなされてまでもこの男と一緒になりました。其後一女子を生みおとし私生兒として屆出でました。その男と五、六年同棲してゐましたが間もなく男は惡所通ひをはじめ、つひにはなじみの娼妓をうけ出して、私たち親子を捨てゝ、女の親もとである××へ馳落ちしてしまひました。やむなく子私を私の親に泣くやうにして頼み込んで預かつてもらひました。

その後、私は市内ある家へ女中に雇はれ、身を粉にして働くうち御主人の御世話で公職にある現在の夫へ嫁ぎました。今では三男四女の母になり、理解ある夫の愛撫に抱かれ精神的にも物質的にも惠まれたくらしをしております。

先夫の子供を親元に預けてから早いもので二十年過ぎました。私が再縁して間もなく、先夫は里にゐる子供を無斷でつれ出し、私生兒認知をしてしまつたとの事です

その子が此のごろ二人まで仲人を介して私に逢ひたいと申し込んで來ましたけれど別れてから二十餘年にもなり、今の夫の手前もあり今さら逢ふのは斷じて出來ません きけば先夫の妻（娼妓）は十餘年のながい患ひで三年ほど前に死に、今では子供と二人で二階借りなどして細々とくらしてゐるそうです。先夫の子は度々逢つてくれるやうにいつて來ますが、私はどうしたら宜しいでせうか。

【答】

現在の幸福を亂す因をつくるな

貴女のお手紙を讀んで居るうち貴女の半生が小說の主人公のやうに思へてなりません、貴女に暴行を加へ、無理往生の結婚を強け、一女をあげて間もなく貴女を捨て、娼妓と馳落ちした先夫、何といふ薄情な男でせう。今や淪落の身となつて夫と同居し、その夫を貴女に逢はせよといふのは結局自分が貴女に逢はうといふ魂胆みでせう。

薄情にも、自分勝手の行動をとりながら、今は身は淪落の淵を彷徨し、あなたの出世をねたみ今更貴女に惡因縁をつけ樂しい家庭を壞さうと企てなさる奸計でせう。

その子と會見することなら、夫を思ひ七人の子供を思つたらキッパリ斷つた方がよいでせう、結局苦勞の種を增す許りですから。それのみかその子に逢ふことは先夫に逢ふことになります。先夫に逢へば、それほどの男ですから必ずや樂しい貴女の家庭はかきみだされるに相違ありません。

要するに此の際思ひ出も遙かな貴女の眞實の子供さんには誠にお氣の毒ですが、現在の七人の子供の母として、總てを忍び我慢して斷然お斷りなさい。

東國海羅小說

愛慾非常線

寺崎洋々洲作 松村秀彦畫

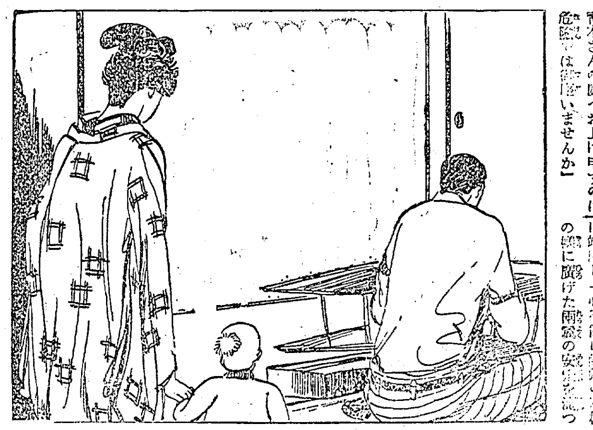
（無斷轉載上映及上演）

……一三九……

妻の行衛（七）

富子は輕く返事はしたものゝ流石に美しき面を眞赤にした、今宵の中に我が身に大難が迫るとは夢にも思はぬ富子は、父に言はるゝ儘急いで我が家を出て久し振りなので秋谷の家え往訪せんと、上野の山下まで來て、土產物を買ふべく腕車を下りた時、山田に逢つたのであつた。

山田に踏らず出會はして小さき胸を痛めた富子は心の中の恐ろしい希望を繰返し、繰返し、秋谷や、その愛君お琴に語ると流石に婦人だけあつて琴子は『ね、役郎、奥さんをお一人で青木さんの處へお上げ申すのは危險では御座いませんか』



秋谷は國運今宵の中に迫るべき椿事の起らうとは心付かなかつたので

『さう心配したら一時も斯うしては居られん、然し警察の人達は何をして居るのだらう』と、暗に其の無能を罵つた丈けであつたが、富子は早く良人に逢ひたいのであるから長居はせず

『夫れでは妾は失禮致します』

秋谷は快活に玄關まで送り出して

『何にしても奥さん、青木君の處へ行つて御覧なさい、實に驚くべき精巧な材料が出來上りましたから、一昨日組立てた機械を見ても喝采驚歎するばかりで』

富子は嬉しさうに

『左樣で御座いますか、兎に角どんな物が出來ましたか態々見て參りませう』

『本當に立派な物です、僕は彼の青木式飛行機が出來上つた時には其の助手として搭乘するのですが、今より秋晴一碧の空を遊覧を擧げながら、愉快でせう。今から胸が躍るやうです、その時には奥さんは日本最初の飛行機の發明家の令夫人として新聞記者などから恐縮の請求に逢ひますから今の内お慣れになつて置いた方が良いですよ』

例に依つて無邪氣なる秋谷は斯る諧謔を弄して富子を喜ばして居たが、彼女に限り知れぬ嬉しさを胸に疊んで良人、下宿する落語館へ行つてみると、今しも懐しき其の人は其の勝に出來てゐる所謂、青木式飛行機の前に端座し一心不亂に機體の組織の間に繋げた兩翼の安定を流つて居た

『若し良人……』

と云つたが今夢中になつて、研究に餘念なき青木の身には妻の言葉は通じなかつた。

『若し良人……』

富子は斯ゝる場合に何度も呼んで反つて研究を妨げるものではあるまいかと暫らく躊躇したが堪り兼ねて

『モ……若し良人……富子で御座います』

驚いて振り返つた青木は起ち上るやツカ〳〵とやつて來て、富子の前にドッカと座り

『良く來たねえ……』

と人目が無いので一寸握手をした。すると富子も良人のなすがまゝに任せて居ると

『おゝ坊も來たのか……』

青木は戲顏に笑みを漲らして

『大きくなつたなアさアお父さんが旨いものを上げやう』

と甘露でも無き、彼れは戸棚の中なる菓子器を取り出した。

靴！靴！
祝御入學、御進級には
是非！定評ある履心地のよい
キクチの靴を!!!
おすゝめ致します。
早くも中、小、女學生用靴の特賣開始致しました、何卒御來店下さい。
平驛前通り
菊地クツカバン店

是非！
御融通には御用命下さい萬事便利な御相談に應じます
公債、債券、質物一般
三井質店
平四 電話六〇六番

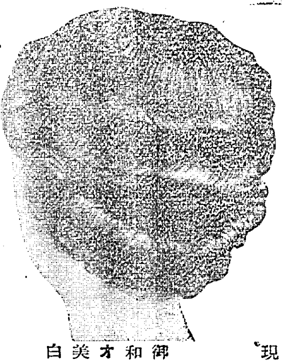
若き日の思ひ出に
是非!!! 記念撮影を！
皆樣の御進級と御卒業をお喜び申上げ破格の割引致します。何卒御來館下さい。
小型六枚 —五十錢—
晝夜間撮影
宮田寫眞館
平市鍛冶町 電話二四六番（呼）

吸入用酸素 99%純度
體温計
寒暖計
度量衡
モノサシ マス ハカリ
計量器
秤ノ取締・垂糸・修繕致シマス
寫眞材料一式販賣致シマス
關内藥局
電話四〇番

生徒募集
▼中等科——中堅公民の養成
▼專修科——受驗難關の突破
『無試驗入學許可』
磐城佑賢學舍
▼軍事教練の實施
▼商業簿記科の特設
古教科書半額以下の讓渡斡旋
平市城山電話三九

根本產科婦人科醫院
平市南町五二【電話四三番】
根本莊次郎
根本貞雄
（入院隨時）

北川外科
外科一般 レントゲン科
内臓外科 泌尿器科
平市新川町二七（電話四六四番）
醫學博士 北川芳夫
技師 三浦常保
◎晝夜診療 イツデモ入院出來マス
（血液檢査毎日）



御得意樣への御禮に！
パーマネントウエーブは……
今や世界的流行であります……
△時間の經濟と能率增進
△時代の要求するパーマネント
△今が絶好のチヤンス
現狀維持では……
時代に取殘されませう
銃後を守る御婦人方への大サービスに
御婚禮御氣付
和洋結髮
オゾン美顔術
美爪術
白赤毛染
最新の美容法を研究しその奥義を修得致して參りました。
（セツトの技巧）
お値段——四圓全部、三圓普通、
水野化粧院
水野冬子
平市驛前電六七八番 自宅電五二五番

花柳病科外科
木村外科醫院
平市六丁目橋際 電話三〇九

上原家政婦會
會主產婆 上原通子
平市紺屋町一一 電話二二番
產婆看護婦資格有者ニシテ最モ熟練ナル者チ一般家政婦トシテ派出致シマス

かまぼこ、
[illegible] 製造
お惣菜用、さつま揚、吉原揚……
天保眞
平市二丁目 電話一四一番

內科外科一般
金成醫院
金成忠義
平市鎌田町 電話三五八番

吉田眼科醫院
平紺屋町 電話六八番
醫學士 吉田久雄

產婆看護婦生徒募集
願書締切 四月六日
修養年限 兩科を通じ一ケ年
平市元一丁目
新築校舍 平市搖鎚小路
石城產科婦看護婦學校
校長 鷹崎千代
電話三五七番

獨特のコーヒーとWINE
紳士の喫茶店
グリル バツカス
サービス料一割（外拜辭）
平市銀座通 TEL 702
女店員募集
▼年齢 十七歳より二十五歳位迄
▼月給 初給四十圓以上漸次昇給
▼待遇 衣裳貸與、食支給
何の氣苦勞もなく朗かに働ける固定給料制です。眞面目に働きたい方は！、健實な生活をお望みの方は！、至急お出下さい。懇切に御指導致します。